

目的 オ1報産炭地区、オ2報都市地区(北九州市)にて老年期の摂取食品 pattern と要因の関係について分析し発表した。オ3報は農山村地区について検討した。わが国における老年人口は急増し、人口の老年化が問題とされている。とくに農村においては、労働力の都市集中と相まってこの傾向が強くみられる。農家における高齢者の労働力の保持増進をはかることは高齢者個々の問題でなく、今後の社会的な大きな指標となるであろう。従来農民の生物学的変化はとくに早いとされ、それには農家の労働条件と食生活の条件が大きな要因となっている。と高木、赤星らが報告している。これらにも視点をあて、さらに流通生産の変化、家族構成の変動などの影響から農村老年者の食生活にあたる影響の検討を行った。

方法 対象農山村地区(福岡県甘木市)65才以上の男女67名について調査を行い、都市地区同年代男女168名との比較を行った。内容①性別摂取食品 pattern を分析し検定を行った。②家族構成別では3 type (I 老人のみ、II 老人と成人、III 老人と成人と子供)に type 別の比較検討を行った。③過去の就業歴別3 type (I 農業、II 自営業、III 事務職)についても type 別の比較を行い要因分析を行った。④健康度は本人の健康認識を3 type (I 過去現在健康、II 過去健康現在自覚症状有、III 過去弱く現在も自覚症状有)に分類し検討した。

結果 2地区間に家族構成、過去の就業歴に相違点のみられ、摂取食品 pattern に影響を及ぼすとみられる。